

今こそボランティア—関心が薄れている今だから 災害を通じて見える日本社会の諸課題について考える



写真提供: Paylessimages

11月18日(日)、11月24日(土)に、仙台POSSEは、被災地の現状と支援のあり方をテーマにした連続セミナーを開催します。それにあわせ、生活・貧困問題に携わるボランティア募集を同時開催します。

東日本大震災が起きてから1年半以上が経過しました。被災地にかんする報道や、ボランティア・支援団体の数も減少し、被災地に向けられる関心は薄れつつあります。その一方で、被災された方のなかには、依然として不安を抱えながら日々の生活

を送っている人も少なくありません。被災地の問題は解決したと思われがちですが、現在も仮設住宅での生活苦や孤独死の発生といった問題は続いています。

そこで本セミナーでは、11月18日(日)には仁平典宏・法政大学准教授、11月24日(土)には仙台市復興事業局生活再建支援室で働いている仙台市職員の方をそれぞれお呼びして、被災地や支援の現状について語って頂きます。また、NPO法人POSSEから現在取り組んでいる支援と、そこから見てきた被災者の現状について報告します。

第1回 講師 仁平典宏 法政大学准教授

日時 **11月18日(日) 14時30分～**
(開場14時)

会場 **仙台 POSSE 事務所**
仙台市青葉区本町 1-14-20 キクタビル6階
地下鉄勾当台公園駅公園1出口より徒歩7分・右地図参照

第2回 講師 仙台市復興事業局職員

日時 **11月24日(土) 17時30分～**
(開場17時)

会場 **仙台市市民活動サポートセンター
研修室5**
仙台市青葉区一番町 4-1-3
地下鉄広瀬通駅西5番出口すぐ・右地図参照

